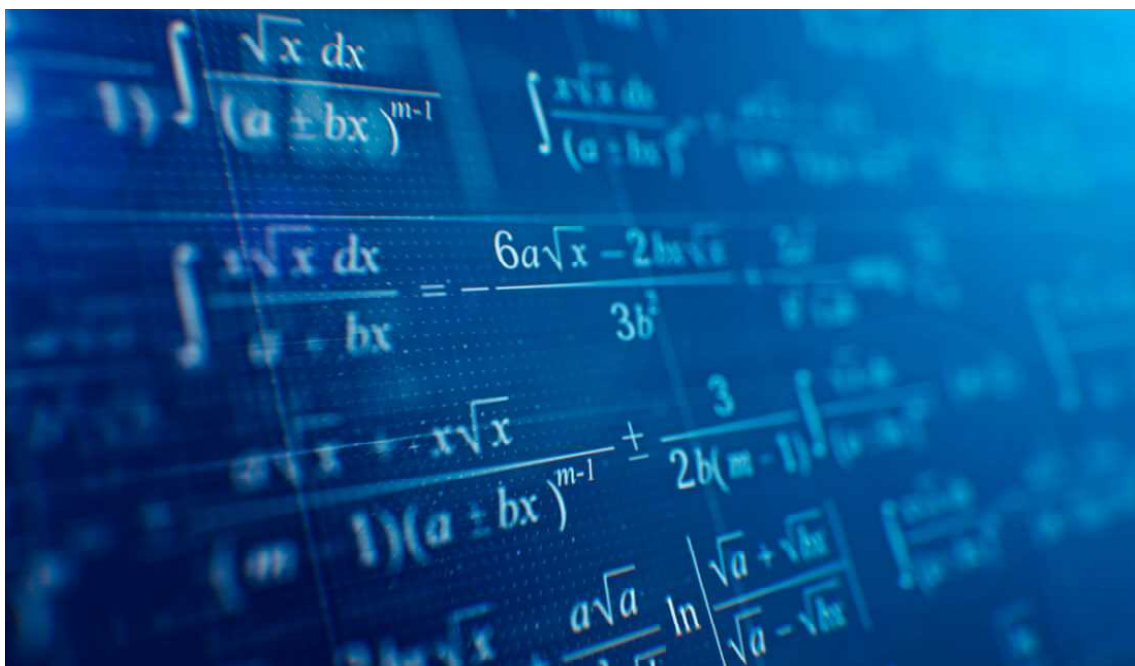


逆転合格の勉強術 (数学編)



～ 受験は要領（和田秀樹著）より ～



ENGLAM
English cram school / English Program

受験は要領（和田秀樹著）より



～ まえがき ～

受験は要領である。

例えば、数学は問題を解かずに、すぐ答えを見て解答を暗記する。

カリカリ解いていては、時間がいくらあっても足りはしない。

時間をかけて解いて覚えても、すぐ答えを覚えても、身に着けば値打ちは同じだ。

解法を沢山暗記すれば、ほとんどの問題は解ける。

こういう要領をいっぱい知っていれば、

大学入試なんて、バイク免許並みの暗記カテストだ。

だが、^{だいたすう}大多数の受験生は、勉強に馬鹿正直に取り組んで、^{だいじぎょう}受験勉強を大事業にしてしまう。

それは、要領が悪いために尽きる。

予備校に通ったり、予習したり、綺麗なノートを作ったり、みんな受験の本質とは無縁のことだ。

受験には、根性も才能も^{へんさち}偏差値も何も関係ない。

思考力を鍛える、なんて真っ赤な嘘。

受験には、^{そうぞうせい}創造性も^{ろんりせい}論理性も知能指数も何も関係ない。

きちんときちんと、暗記の貯金を着実に積み上げていけば、自然に受かるのが大学入試なのだ。

受験で覚えなければならない事など、たかが知しれている。

覚えられないのは、“要領”が悪いだけだ。

もう一回言う、

覚えられないのは、頭が悪いからではなく“要領”が悪いだけだ。

英単語や古文単語を正面切って覚えようとしたり、歴史の分厚い参考書にクソ真面目に取り組んだり、そんなことをバカ正直にやると、覚えられないのは当たり前である。

覚え方にも“要領”がある。

このテキストは、この要領と暗記で、1ランクでも上の大学へ合格しようという受験術を公開したものだ。

私は、この方法に高2のときに気づいた。

運なだちゆう良く灘中に受かったものの、全くついていけず、絶望的な劣等生だった私を、現役で東大理Ⅲに合格させてくれた方法だ。



-和田秀樹氏-

また、私は学生時代から多くの受験生を指導してきたが、この方法で、ほとんどの受験生が一流大学に合格していった。

さらに、この本をまとめるにあたって、私がカリキュラムを作成している受験塾「受験指導ゼミナール」の講師陣にいろいろ話を聞いてみた。

彼らは全員、東大理Ⅲ、文Ⅰに現役で受かった学生なのだが、驚くほど、受験に対して似たような考え方を持っていた。

多分、東大に現役で受かるぐらい要領のいい連中なら、この本に書いたことの半分ぐらい、うすうす知っているのだろう。

ただ、それが今まで体系化されていなかっただけの話なのだ。

本書は、その受験用勉強術を、はじめて「こうすればよい」と、体系化したものである。

受験は頭の良し悪しでなく、暗記と要領だ！

■ 大学入試は、運転免許の筆記試験並みの暗記力テストだ

もし、君が「受験なんて、最後は頭のいい奴が勝つんであって、凡人ではとても相手にならない」とか、「IQの勝負なんだろう」などと考えているとしたら、君はとんでもない大ウソを真に受けている、かわいそうな被害者だと言わざるを得ない。

私の経験からいって、そんなことは全くない。

おそらく難関と言われる大学をパスした連中も半分くらいはうすうす知ってるはずだが、オリジナリティとかひらめきとか、頭のやわらかさとか、思考力とかいったものは、なくとも十分やっつけていける、いや、時にはそんなものが足を引っ張るのが、受験なのだ。

受験の合否を決めるのは、頭の良し悪しより、むしろ“要領”なのである。
では、受験における要領とは、何だろうか？

それは、出題されるところを効率^{てつ}に徹して覚え、いかに“暗記の貯金”を増やすかに尽きる。

「受験は暗記だ」といえば、受験生諸君は「何を当たり前のことを」と言うかもしれないが、本当に暗記に徹しきれているかどうかは、実にあやしいものだ。

例えば、数学の問題を解く受験生がいる。
これはナンセンスである。

後で詳しく述べるが、数学は答えをすぐ見て解法を暗記した方がはるかに暗記量を伸ばす。

問題を解く、きれいなノートを作る、予備校に行く、
みんな暗記とは無縁なことばかりだ。



というのは、今の大学入試は、単なる暗記力テスト以外の何ものでもないからだ。

さらに言えば、過去の頻^{ひんしゆつ}出問題をいかによく知っているかをチェックするのが大学入試ともいえる。

また、二次試験に関して言えば、問題の傾向が変わらないのは、問題を作っている人物が同じだからである。

実は、文科省から各大学に、平均点が 60 点になるような二次試験問題を作成するよう、お達しがあり、暗黙の了解事項になっている。

これはセンター試験も同じである。

どの世界でも、試験に関して言えば、平均 60 点が、永遠の“お約束”なのである。

確かに、こんな受験制度があるのは、日本の将来のためには、情けないことではある。

今のままでは、創造性や個性的なセンスを持つものは排除され、命じられたことを大人しく覚える「暗記バカ」ばかりがエリートということになる。

これでは画一的人間ばかりが作られ、オリジナリティを封殺してしまう。

とはいえ、私たちは、今も昔もその制度のもとで生きているのも事実だ。

大学入試に挑戦するなら、この暗記力テストを避けて通るわけにはいかない。
だからこそ、このバカバカしいテストを要領よく切り抜けて行こうというわけである。

大学入試を暗記力テストと割り切れれば、対策は簡単である。

なまじ思考力を鍛えようと思ったりせずに、出題されるところだけを、要領よく丸暗記していけば良いわけである。

もちろん、思考力は実社会に出たら必要だが、受験では無用に近い。

例えば、国語で独創的な読解をすることは素晴らしいことだが、それでは点にならない。

点になるのは、採点官が欲しがっている、パターンにはまった模範解答なのだ。

数学でもそうである。

ひらめきに溢れた天才肌の解答より、模範解答とそっくりの答案の方が確実に点になる。

入試では、採点官は短時間に何万枚もの答案を採点しなければならない。

だから、天才肌の答案は計算ミス等で答えが違えば0点だが、模範解答は答えを間違っても部分点はもらえる。

後で詳しく述べるが、模範解答は、思考力がなくとも解法の丸暗記だけで誰でも書けるようになる。



数学こそ暗記物である

■ 数学は解答をすぐ見て、暗記することが実力を確実に伸ばす

受験常識の大ウソのひとつに、数学は他の科目とは違って、丸暗記は通用しないという根強い迷信がある。

数学には頭のやわらかさやセンスが必要で、それを使うには問題を解いて考える力をつけるしかない、というわけだ。

学校や予備校の教師、マスコミが撒き散らしたこんな妄想を、毎年 50 万人以上もの受験生が信じているわけだが、逆に言えば、大勢が間違ったことを信じているおかげで、私のような要領のいいものが、東大に合格してこられたのだと思う。

確かに、数学には頭のやわらかさが必要だ。

しかし、それは大学に入ってから的高等数学の話で、似たような問題が 100 年 1 日のように出題される大学入試に、数学センスなど全く要求されない。

要は、「こう来ればこう解く」というパターンの分類と解法を知っていればよいわけで、そこへの早道は、自力で解くことではなく、解法の丸暗記だ！ ということを知ってもらいたい。

～（中省略）～

プライドというのは、厄介な代物だ。

事の本質、つまり、“受験は暗記であり要領だ”ということが見えなくなる。

そして、ひとりよがりの満足感だけを味わっているうちに、脱落していく。

だから、もし君が妙なプライドの持ち主で、数学の参考書や問題集をせっせと解いているのなら、勉強法を一変させて欲しい。

2 時間かかって難問を 1 題解いても、誰が褒めてくれるわけでもないし、類似問題が入試本番の制限時間内で解けるとは限らない。



同じ時間を使うなら問題と解答を 20 題丸暗記する。

これが、本番で確実に役に立つ「点の取れる実力」への最短コースなのだ。

もっと言えば、数学では自力で解いてつんだ力よりも、解法の丸暗記のほうがはるかに役に立つ。

それは前にも述べたように、オリジナリティ溢れる答案は、答えを間違えば 0 点だが、一般的な解答なら、答えを間違えても部分点がもらえるからだ。

また数学では、一度ついた差は、解くことでは絶対に逆転できない。

数学の力は、当たった問題数に比例するが、問題をカリカリ解いていると、できない奴が 1 問解いている間に、できる奴は 3 問解き、その差は開くばかりである。

この一問をこなしていく時間差を逆転するには、問題を見たらすぐ解答を丸暗記していくしかない。

この方法だと、できるやつが 1 問解く間に 3 問は覚えられるだろう。

暗記受験術は、弱者のための逆転の合格術でもあるのだ。

数学勉強法 まとめ

- ① 問題を読む
↓
- ② すぐに解答を見る
↓
- ③ 解答をノートに書いて、丸暗記する
↓
- ④ **これを繰り返す**



※ 解答はすぐに見ても良いが、必ず書いて暗記する。

解答を紙に書く事と計算する事の2つだけは、絶対に怠らない。

数学

問題 ○○○・・・

解答 □△○・・・

※左のようなノートを作り、
上の問題を読んだら、すぐに下の解答を見られるような構成にする。

これができあがれば、他の人が1問解いている間に、3～4問を暗記する事が可能。
また、解く為に費やすエネルギーも省略できるので、疲れずにどんどん進められる。

完全に覚え込むまでしがみつかず、次々と繰り返すことがポイント。
確実に覚える事ではなく、繰り返す事に集中する。

解答はすぐに見ても良いが、必ず書いて暗記する。

解答を紙に書く事と計算する事の2つだけは、絶対に怠らない。

その他の教科

問題 ○○○・・・	解答 □△○・・・
-----------	-----------

※見開き形式にして、左側を問題、右側を解答にする。
すぐに解答を見られるようにすることがポイント。
パンチで穴を空け、バインダーに閉じて編集してもOK。
繰り返し見る&書いて覚える事が、何よりも大切！

～まとめ～ リラックスして集中する

本テキストは、大学受験前に頑張っている生徒のために、その負担を少しでも軽くして、なおかつ、大きな効果が出るような“勉強法”について、書き記したものだ。

大学受験を直前に控えた学習は、大きな精神的負担を伴う。

この時期は、常に不安との戦いであり、不安を持つと凄いエネルギーロスになる。

しかし、センター試験の問題は、基本的にその内容はいたってシンプルで、パターンや型にはまった、簡単なものばかりだ。

あまり構えなくても、これまで多くの先輩達が乗り越えてきた壁なので、あなたなら大丈夫。

物事は全て「習うより慣れろ」である。

センター試験の教科学習を続けるには、確かに集中力が必要となるが、一番大切な事は、リラックスしながら集中することだ。

実は、リラックスしながら集中した方が、問題を解く能力は向上するという統計結果が出ている。

緊張しながら集中すると、とても疲れるし、結果として長続きしない。

大学受験は、3年間の長期戦、マラソン・マッチだ。
じっくりとコーヒーでも飲みながら、リラックスしてこのマニュアルを眺めて欲しい。

試験に出る箇所は、ある程度決まっているので、あとは効率よく、過去問の解答を丸暗記していくのみだ。

さあ、いよいよ戦闘開始だ！
毎日、少しずつ丸暗記して行こう。

もう一回、手順について、おさらいするが、

- ① 問題文を読んだら
- ② すぐに解答を見て書き写し
- ③ 解法を丸暗記する

この方法は、数学だけに限らず、
最短距離で、合理的に物事を学習する最強のメソッドだといえる。

どうして、こんな合理的な方法が、世間に出回らないのだろうか。

それは、日本の国民性^{こくみんせい}に関係がある。
日本人は、解答を見る事に対して、罪悪感^{ざいあくかん}をもっている民族^{みんぞく}だ。

問題を自力で解くことを義務^{ぎむ}づけられている、日本の小中学校に長くいると、子どもは知
らず知らずのうちに「解答を先に見て丸写しすることは卑怯^{ひきよう}である」というイメージ^いを刷
り込まれてしまうのだ。

その結果、何でも自力で解こうとして、そのうち息切れ^{いきぎ}を起こし、
最後には、やる気を失ってしまう。

よくよく考えてみると、とても不思議なことだ。

「解答を先に見る事は悪い事だ」なんて、誰が決めたのだろう。

本当に困るのは、解答を先に見ることではなく、問題が解けないことだ！

また、日本の教育制度は、丸暗記を極端に嫌う傾向にある。

「丸暗記するよりも、意味を考えながら解いた方が頭に残る」

「丸暗記など実生活に何の役にも立たない」

ということなのだろう・・・

確かにそれは、全くの間違いではないかもしれない。
しかし、受験という分野に限定して考えた時、

「丸暗記」ほど頼りになる戦術はないということも事実だ。

「丸暗記なんて…」

そうやって、ライバルがひるんでいる、その時こそがチャンスである！

あなた一人だけ、ドンドン丸暗記していけば、気が付いた頃には、周りとの差は大きく広がっている。

ライバルを出し抜き、一人勝ちするチャンス到来である。

また、高校分野の学習には、意味を考えても難しすぎて分からない問題が数多くあることも事実である。

理想にしがみつき、意味や理由を考えることだけに集中していると、エネルギーを必要ではない方向に使ってしまうことになる。

何事も考えてばかりいては、前に進めない。まずは実行が大事だ。

そして、日本の生徒は“**反復学習**”を極端に嫌う傾向にある。

二回目からの学習こそが、暗記量を一気に増やせる“おいしいタイミング”なのだ。

一回目は初めて解くので、理解に苦勞するが、二回目からはスムーズに進んでいく。

三回目ともなると「コーヒーでも飲みながら、ブレイクタイムにちょっと」というくらい気楽なものだ。

一度学習した部分を繰り返して、暗記を強固なものにすれば、その後の学習のはかどりが全く違ってくるものだ。

しかし日本の生徒は、フレッシュな問題を求めてか、一回目に苦労したのでそのトラウマからか、二度目の学習には手を付けようとしない傾向にある。

“反復学習”こそが、忘却を防ぎ、暗記を強固なものにする最強の武器である。

最強ではあるが地味なので、なかなかやる気にならないのは分かるが、そもそも効果的なものほど地味である。

例) 相撲の最高勝率勝ちパターン	・・・	寄り切り
ボクシング	〃	・・・ 判定勝ち
野球		・・・ バントと犠牲フライで1点先取

上記のように受験だけでなく、勝敗が劇的なスポーツの世界でも、その法則は当てはまる。

だから、地味でもここは我慢してほしい。

この法則に気がついただけでも、あなたは受験の勝^{しょうしや}者になれる可能性大だ。

皆がせっせと1つの問題にかじりついている間に、あなたは3つの解答を丸暗記して、ライバルよりもはるかに少ない労力で、大きな効果をあげていく事ができる。

今日から、あなたの逆転勝利劇が始まる！

あなたの健闘^{けんとう}を祈^{いの}る。

リラックスして進んでいこう。

共通テスト 数学突破のための心構え・5か条

- ① 80点主義を貫く！100点を目指そうとしない。
- ② すぐに解答を見ることに罪悪感を感じない。
- ③ 全ての意味を理解しよう、完全に納得しようとするな。
- ④ 解法の丸暗記に疑問を持たない。
- ⑤ 数学は沢山ある教科の一つにすぎない、のめり込まない。

共通テスト 数学突破のための勉強法・5か条

- ① 問題を読む。
- ② すぐに解答を見る。
- ③ 解答をノートに書いて、丸暗記する。
- ④ 反復は重要、①～③を繰り返し暗記を確実なものにする。
- ⑤ ムキになって解こうとしない。



- ※ 解答はすぐに見ても良いが、必ず書いて暗記する。
解答を紙に書く事と計算する事の2つだけは、絶対に怠らない。
- ※ 繰り返すことが大切、暗記がより強固なものになる。
- ※ 一生懸命頑張りすぎず、適度にやる。